

古宇利地区放流ウニ収穫指導

1. 課題名 「古宇利地区放流ウニ収穫指導」
2. 担当普及員 平手康市(本部駐在)
(協力者) 水産試験場 島袋新功
栽培漁業センター 与那嶺盛次

3. 概要

平成5年2月15日に、今帰仁村古宇利島地先に県栽培漁業センターがシラヒゲウニ(殻径3cm、10,150個)を放流した。これを今帰仁漁協ウニ部会が管理し、栽培漁業センター、水産業改良普及所本部駐在及び水産試験場が実施した追跡調査に協力した。

平成6年7月18日に実施した栽培漁業センター及び水産業改良普及所本部駐在の放流種苗追跡調査及び身入り状況調査で、平均殻径73.3mm、平均個体重量152.5g及び平均生殖巣重量12.6gであることを確認した。この時点では、若干、身入りが少ないということで、漁獲は実施しなかった。8月5日に同様の調査を実施したところ、それぞれ79.7mm、204.8g及び22.6gであった。この結

果をウニ部会総会に報告し、9月7日に漁獲を実施することを決定した。また、収穫に先立ち、水産試験場島袋研究員により、放流効果調査がなされており、結果は、水産試験場の報告に委ねる。

4. 目的

計画的なウニの放流と収穫を目指す。

5. 到達目標

放流効果を数量として把握し、ウニ放流事業の有効性を確認する。

6. 機材、材料

スクーバ潜水機一式

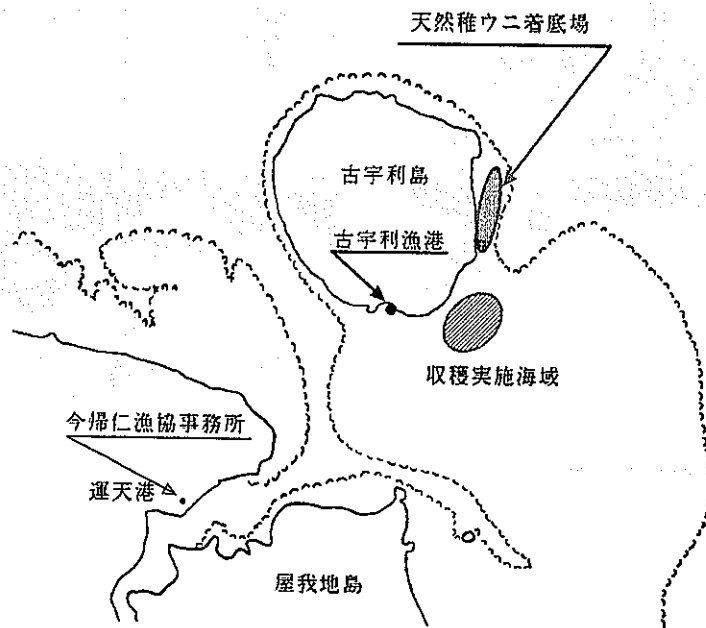
水中撮影用カメラ

ノギス：ウニの殻径を計測する。

重量計：ウニの全重量および生殖巣の重量を量る。

葉さじ：ウニの生殖巣を摘出する。

時計皿：摘出したウニの生殖巣を乗せて重量を量る。



放流ウニ収穫作業実施海域

7. 活動方法

水産試験場および栽培漁業センターと連携し、放流ウニの分布状況を調査し収穫作業の指導を行った。

収穫量の把握は、漁協ウニ部会総会の取り決めにより、漁獲実施日には放流ウニ以外は水揚げをせず、放流ウニのみを出荷する事により出荷量及び漁獲収益を得た。また、収穫個数、水揚げ個数及び再放流個数は、収穫ウニを全数計数する事により得た。

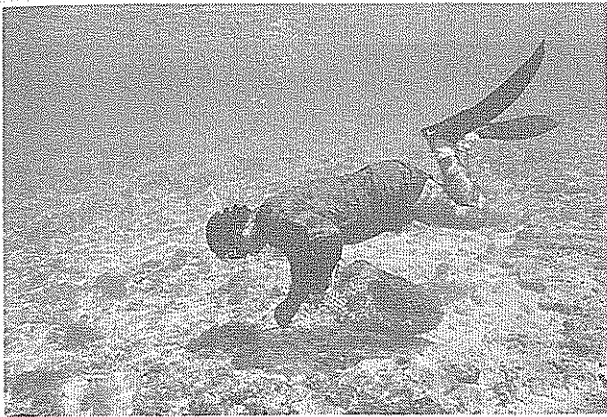


写真1 放流ウニ収穫作業

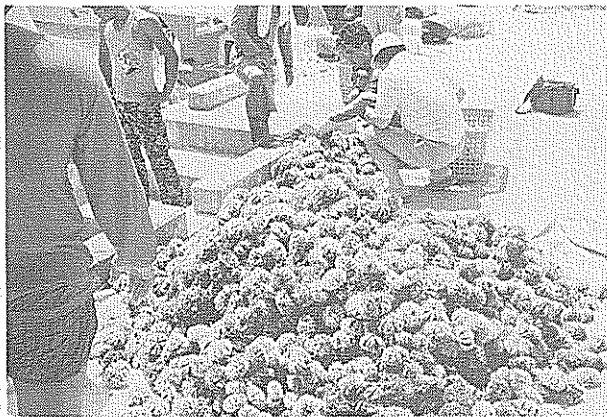


写真2 収穫されたウニ

8. 結果、所感

収穫の結果、以下のウニ漁獲があった。

収穫個数：4,277個

内訳：水揚げ個数 2,479個

再放流個数 1,798個

出荷量：44.3kg

漁獲収益：542,680円

(100g当たり単価1,225円)

放流効果については、水産試験場の報告を持たなければならず、この場での所感は避けるが、今後も継続して調査および指導に当たりたい。



写真3 身入りの悪いウニは再放流した